

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19

諸國
回郭

頌
城
崎
人
傳

三



門へ 13
番 1221
巻 3

眞野
藏書

傾城野人傳卷之三 山東京傳選

室の浮船為情を懐て従良を定る話
君と相むりし轉相就と志と變極く一舟共小
せんとぬる如詩をも賦して唐士まじり情の及ぶ
てのち紙船の如く況和國の神代の送風を傳へん
魚慕を情の中小和志を流さる意の賦ありんや
大坂新所あり浮船を夫ととりて金盛と對めりて廓小
舟少しありとゆきてあやこの金盛と對めりて廓小
入來る程の大盡をねくまると先伐争ふお舟の海
中小堀江邊の同屋小並思を林蔭あるもの青樓

あそびの事初よりいふ神の縁結びけりは浮船
小別添かきぬく末の松山波こそ下の契約のそ
牙小令ある程へ老を階ふし死て穴成同うせん中
かた紙拵紙の敷くそりかきしをたをあきお借
まらさく一際あり記意中と余に眼よ誰も次より突
や着まれへ速ひ執事をまばあやうこそさうり林蔭を
浮船が羨色小わごさる金銀を沈土のめく接漫
るるく家内の換益成願を唯失墜のそなりけり
日成強く竟小内蔭のそり明売とあり亭主一人
放埒あまぶ手代小者小いころやておのころぬく

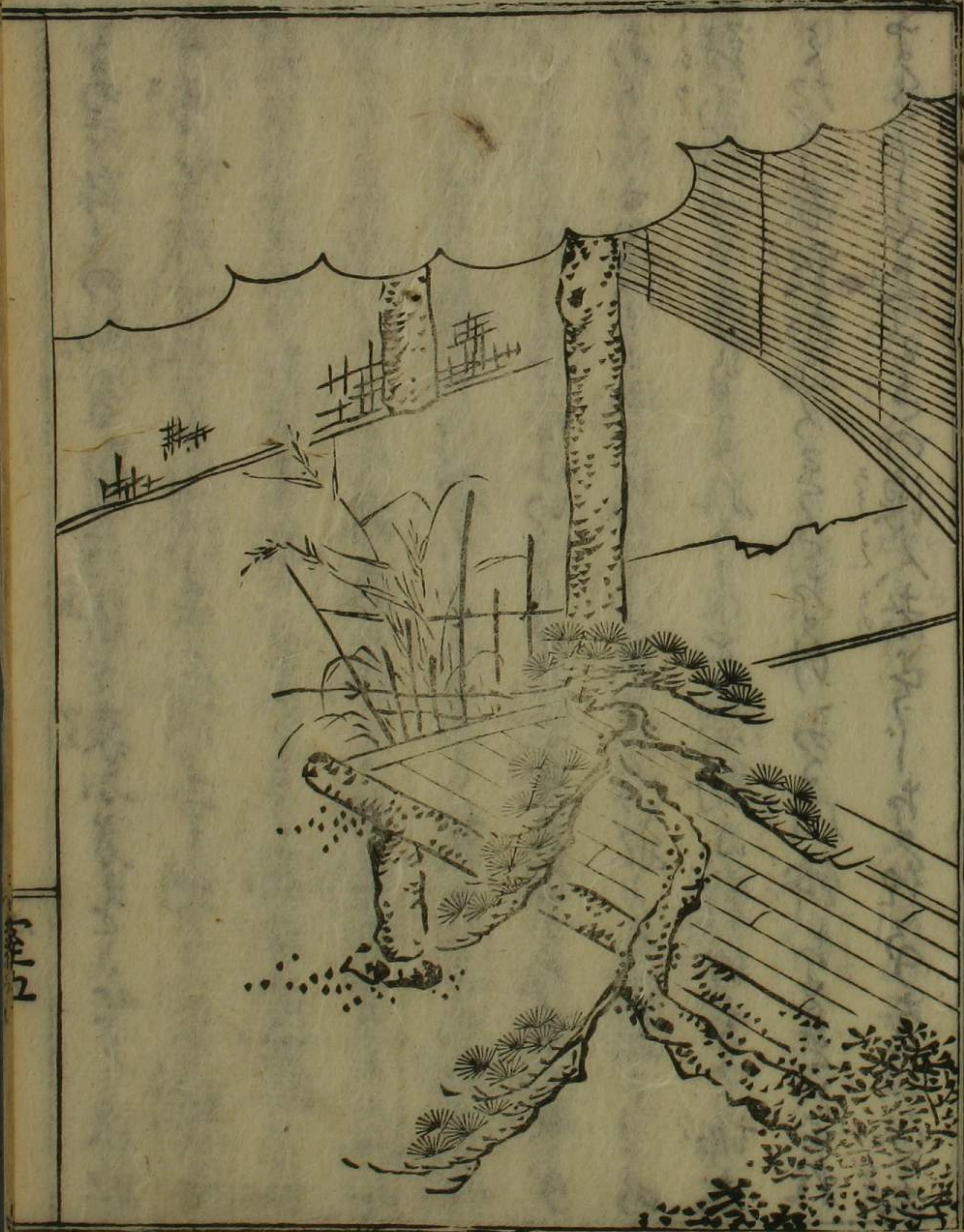
裁業成趣一銘とてこの引負号を屠とせし
さか筆先の利銀をみく人知身は且取小わぶせり
考ち記辞少く味をととま立ちりけるゆへ内從不
ちるう人高ひ方小差交杯蔭殆当惑して俄小家
内の詮義をちせとと鬼角物ごとと晚これ今交
先非を悔と所詮この家ちちこゆへ手術もあ
一けん家成落延人と女房を離縁ちち親里へ戻し
家屋敷をとも賣拂ひそ帳切の席より寺傳の書
店かりて三分庭の俺位居あちたなき家務ぐらふ
半半余りこりけり或夏の初めつら林蔭屋

森茂志く居たりーがいつくまりり来りけん色
よ記取梅のさぬをさぬさぬさぬ髪ハ思ふよゆひるあ
さ女枕もゆるふ赤海子城よりく見せバ終せとたか記
浮船をまわると里杉と林蔭が袖ふたりまがり洞は
曇つとくま夢志くは往いふの筈原持とたふ志
信とくー岩橋の表れ通ひをたまりー城鬼やあ
ん角やとくくせのふそと鳥の鳴さへ氣づらとくーく
はとさせつ夢を毎ちとめくれ流方ののれとあふ
くくふんづとくもあをえん持と来らせぬとさるこえ
うそけと赤絶ー帳を志くくとかさるふ林蔭

へ何といひ出をさつ洞をた、只胸小釘赤とくく小懸
おひひしが忽さへさるけとこれよる頼小懐香の
情うぶ記とく慕慕已あふ小や坊あふと我今一そふ
浮船が親を君中ほーくさひて新町小懸とんとさ
ふかりりて夢さぬとあさむかしく揚屋たんとさあ
こやとひをよむと公の裡とく男の夢あを款さ
つ、安かーと徘徊とくふちとさちとくも引舟戸橋小
行あいつり集ハ籠しと者とくく見忘れとせは懸耳
挨拶志とけは林蔭も今ハ男の取を忘れとさ
がら浮船が安吾城同ふ戸橋とくさく浮船とせハ

後田舎の客人と名増なる沢ありては廓小居る事
 かたうまはるし喜の比よ室の津へ下るひあり
 彼地小ねわく探娘よく勤め居ぬやう一は程も無小
 ありしといふ林花娘をゆきて戸係小別はゆり
 遠死室の津小ありと愛しよる室を成さしこころ
 胸つあましく浮船を舟へ國を隔るあまども我小ん
 残よんまはく我ら愛小く魂のかまひ来て姿を教し
 根のとけをゆけんいと可憐き染が公根やと男さりぞ
 へく一は泣あせるとしてたをあり慈病とあり果ん
 よりへ彼はふいそりて浮船小めぐり逢ひ小積るう知はし

哉かろくちやと忠素を極め用意の貯へとてもあは
 されハ鏡心のころころ家具を集り喜代あり些の
 諸銀を肌小つけくやとあめり小大坂を立出神傳
 川の釣者小覚束あくもひらと橋乃つむちうぬ尼が橋
 そむこ川をうち流し夜をひるこの流社といそくふ
 むけぬあゝの屋れ遊の塩焼亭死世を誰が住しと
 菟原の里摩耶の河やうれ慈しこ小妹ら行束を求
 墳余は小見たりていづ由川鴨越の垣さ小別を逢
 とあやまの河の名さくう頃磨や逢くおひひと
 不浮やうく室小忌うけは津の船宿長八といふ



山手



山手

かのすうの知事あはば染が家小舟をよせし浮船
 があ家城あつち咄うた合あはさ小ちは妻大坂より来りしる娼あやて
 ひひとりともあはれよし志うせとも丁子屋小浮船と云
 つるちまありとゆめて林蔭あやのゆりしる小
 それに我大坂の浮船あつべしと云ひ飛とらぬく
 びそ子迷こま丁子屋小いしりて遙とほく大坂よりや交あり
 ありて来りしる老おあり何なんと我浮船との小志こしりの
 対面たいめん城じやうゆるしるまこれしと慇いん勤きん小こねけきと垢あお
 きたる衣い敷ふあふりまこちなげみる風かぜ体ていなるまこれ
 やましし上うごこの浪なみ人ひと老おまごなるるをいひしる

くと吾われ小こや来きつんと亭てい立た残ざんをめ家内けいの女に廊らうも一
 向むかより敵たけを浮う船せんまじり比ひ比ひ客きやく人の宮みや傍はた訪う小こ誘ゆうりま
 めまししい中ちゆうまぬりめらばとあぬ虚うそ言ご城じやうかちてつせか
 と林りん蔭いんをかへぬされども林りん蔭いんの中ちゆうくあひとま
 けし親おやもあつる志こころをく来りて我身われみ浮う船せん小こ遠とほこと
 叶かなひ死しく後あつち屋やの奴やつことなりあひく小こは怨うらを報むかへ
 受うけし其その亭てい主しゆも後あつちまかりてあぐまかふる場ばとれる老おの
 我われ家け小こ出で入い志こころして世よる此こゝ受うへもあし結むすぶ女に廊らうどもの
 娼あやあつべしと或ある日ひ浮う船せん小こよくいひあめく老お小こ遇あせ
 けし其その林りん蔭いん悦よろこびて浮う船せんの敵たけ家け小こ入いりめてまきま

ぶらぶらこの廊下を比ねたれ全盛と叫ぶもこぼりり天
 然の羨も色あり些も胎粉を施さば志く鳥の籠る
 ちろろ玉の如く綺羅を飾り小糸の秋を切る風
 情おのぼろろ花王骨聲小をたたく雷頬のすくすく
 秋の波のあゝ見舞の犀の微く露さす中程粗園秀
 の翹を惹き中々新町の浮船がよ容姿小西屋
 林蔭からうきと逢りけしとそ人の笑あつ小殆
 身心倦つりきて一言半句の詞さすは憔悴と志く
 あらを浮船つりくも我牙大坂小知者の人とそ
 小舟けしと遠く定小舟りて我小遠んとのゆらけり小

いらあつ子細ありや林蔭蒼々かく對面あつるうへ何
 をうつろも一人取つて牙の懺悔あつる浅すれ船
 成えてを文と慕ふもなまのりあつれ我大坂堀
 江より笠岡屋林蔭といふものあつるが新町浮船を文
 と幸ころあつて程小牙代滅却志く見る程もあ
 ねけぬとちり果たりそれゆへ一とせたりも言絶
 てみしつら過り流引船戸崎小染が牙の上我りし
 け室の津へ下りてよとせつたて人ほり満ちとも我
 と契りし詞の敷くいよも志すや一巡りあひてか
 小目迄の憂哉倍んとたのしきつて宴まで下りし小

今をどめて人遠あるは城知り誠小面目もあらば
 なるこれ城心へ世小標客やと執着のあらぬ者あり
 ずいと涙を拭くかゝるは我を浮船も表を御し扱ひ
 友やうの伏しきありしうその大坂の浮船がせ成た程
 無の人どもち身又主身身のるは程もむふりけず零
 落する人ふすこへん中城うさうとあひまき身の新町小
 むちがううさう中室の海へ仕替ふやうせしと人を
 てまことやうやう小偽るなりそれとも悟る遠き
 及を厭ふを為来りあひし今時の客小又あやうに
 心をやこれ程心空なる人を惘然小待りたるを

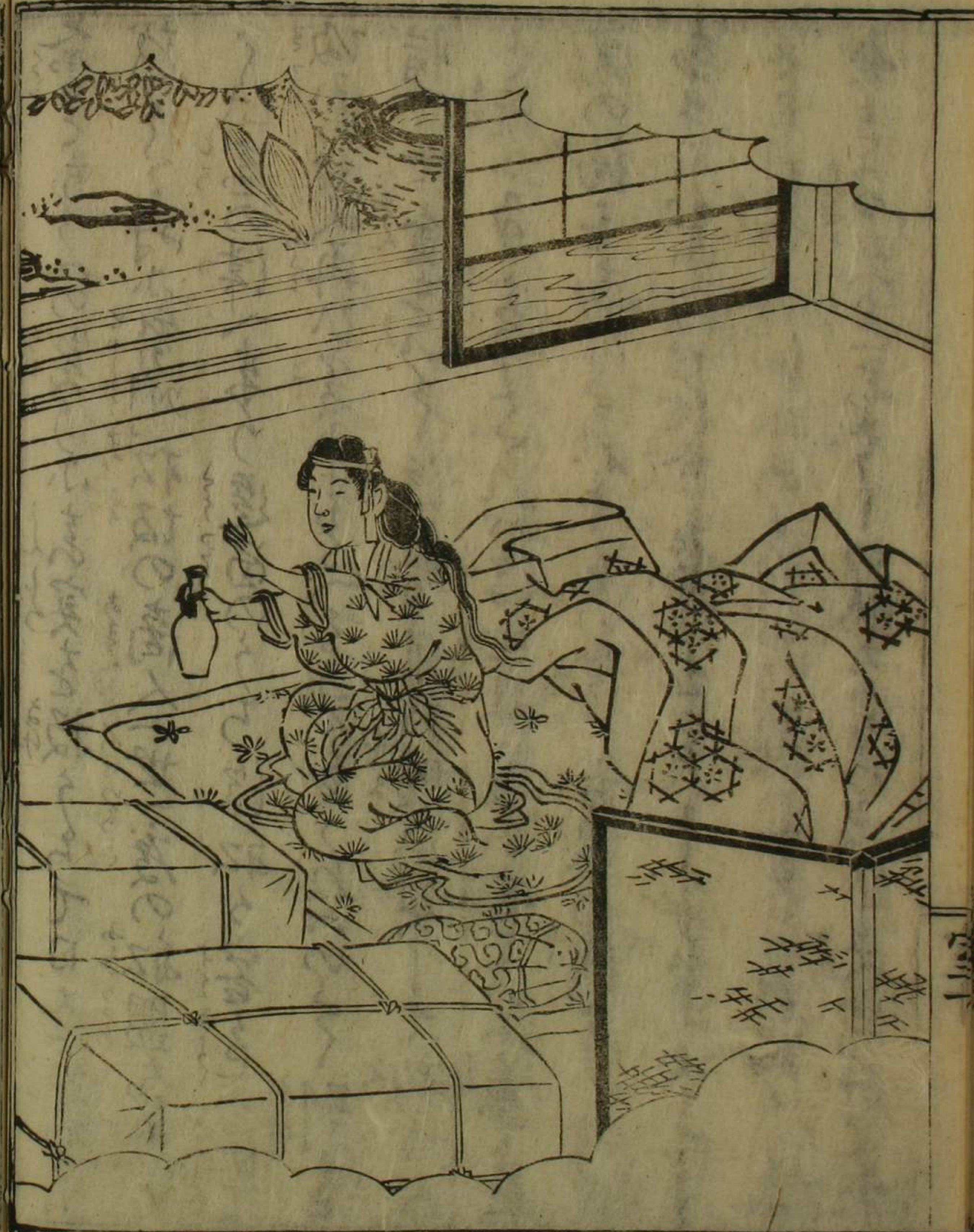
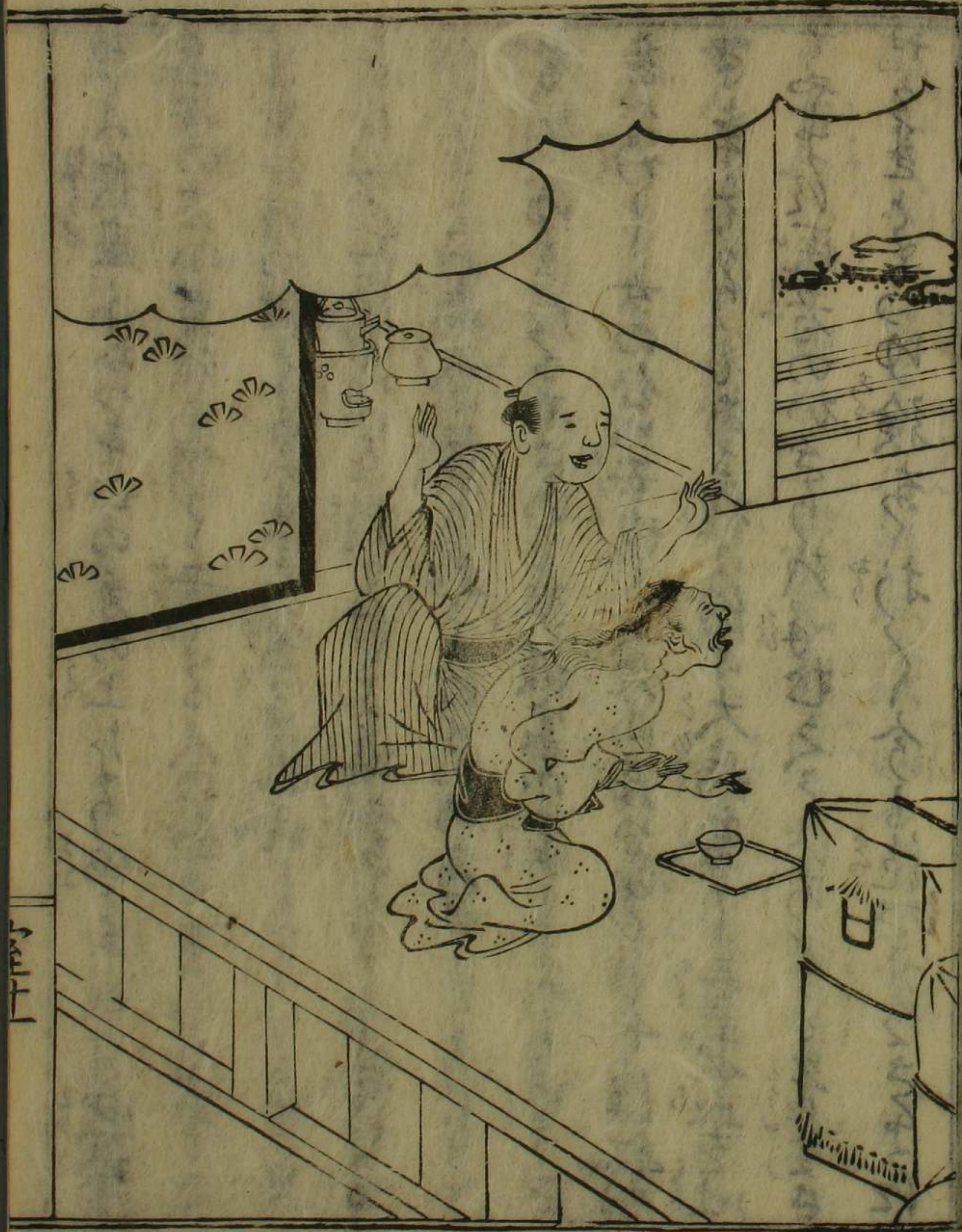
主の情志はけいり小苦界の身あまるとて客城欺も
 小よるへけき田舎をてあるは勅する方たるとも潜上小
 溺は強慾を表とあき実ある人を見落さし我を小
 むく愧る亦ありと身小ひき競てかけき林蔭これ
 城壁て浮船が不心中を大さ小憤り懐中の守代えよ
 了血判あたる誓紙を數十枚とり出しのそと引破
 るい小余人へともあき渠よかきり友やうの薄情あり
 ずいとあひの外おそろし絶絶計小かるうと今この
 子辛万苦も嘆きの泡と消果するもの口惜うよは
 俣大坂へ引くはかの身突ころしてくまんとは相違て

近歩に浮船引^いてあてい^あやう成程^{なるほど}立腹^{たつぷ}なりありあせを
 も先^ま心^{こころ}成^{なり}志^しづめて得^えと^と別^{わか}を仕^しわ^わお^お手^て成^{なり}殺^{ころす}と^と死^しは
 身^みの命^{いのち}もあ^あず^ず死^し一^{いっ}旦^{たん}小^こ志^しく^く安^{やす}し^し卑^ひ劣^{りつ}ある^あ妻^{つま}女^め
 の為^{ため}小^こ大^{だい}切^{せつ}ち^ち親^{おや}父^ふ母^{はは}小^こう^うけ^けし^し一^{いっ}身^{しん}成^{なり}亡^{なほ}せ^せん^んま^まら^られ^れ女^め
 孝^{うやうや}あ^あら^らば^ばや^やこれ^{これ}を^を小^こ家^け名^なを^を断^{こと}つ^つる^る子^こ孝^{うやうや}の^の死^しは^は今^{いま}又^{また}
 悔^{くや}む^むと^とも^も益^{えき}あ^あら^らし^しと^と角^{かく}過^{あやま}ら^らし^しあ^あら^らし^しむ^む小^こ憚^{はたら}こと^{こと}あ^あ
 せ^せと^とま^まけ^けば^ばあ^あて^て命^{いのち}い^いけ^けあ^あら^らし^しく^く先^{せん}祖^ぞの^の教^{まがら}言^ご小^こ備^び
 め^めと^とう^うを^を盡^つして^{して}煉^{れん}け^けは^は林^{りん}蔭^{いん}も^もこ^ころ^ろく^くど^どけて^{けて}世^よ
 ま^まか^か、^ま情^{なさけ}あ^あら^らた^た女^{むすめ}身^みも^もあ^あら^らし^し小^こと^と浮^{うき}よ^よく^く世^{このよ}に^に上^あり^ます^ま
 の^の情^{なさけ}小^こ志^しく^くひ^ひや^や盡^つして^{して}さ^さら^らあ^あて^ても^も我^{われ}身^みの^の命^{いのち}を^をと^とら^らせ^せ

ち^ちと^とあ^あら^らし^しむ^むた^たる^る醉^{たい}あり^り浮^{うき}船^{せん}あ^あら^らし^しぬ^ぬて^て續^つ
 死^しに^にあ^あら^らし^しむ^むよく^くも^もあ^あら^らし^しむ^む止^{とど}ま^まら^らし^した^た不^ふと^と温^{ぬる}柔^な
 あ^あら^らし^しむ^む中^{なか}家^けも^も大^{だい}接^{せつ}が^がく^くと^とへ^へを^を公^{こう}勞^{らう}仕^しめ^めあ^あら^らし^しむ^む
 小^こ不^ふ自^じ由^{ゆう}あ^あら^らし^しむ^むや^やう^う計^{けい}ひ^ひく^く今^{いま}よ^より^り我^{われ}客^{きやく}人^{にん}と^とあ^あら^らし^しむ^む
 こ^ころ^ろが^が浮^{うき}身^み我^{われ}小^こ心^{こころ}あ^あり^りや^や林^{りん}蔭^{いん}さ^さら^らが^が小^こ恥^ちら^らて^てい^いふ^ふ船^{せん}
 の^の舌^{した}小^こあ^あら^らね^ねば^ば詞^{ことば}を^を卑^ひく^く一^{いっ}志^しく^く家^け女^めさ^さ大^{だい}浪^{なみ}子^この^の
 心^{こころ}に^に往^{むか}て^てう^う身^みを^を立^たて^て人^{にん}只^{ただ}妹^いさ^さい^い右^{みぎ}父^{ちち}主^{ぬし}の^の情^{なさけ}あ^あら^らし^しむ^む一^{いっ}言^{ごん}
 これ^{これ}小^こ志^しく^くし^しむ^む仕^し合^あい^いあ^あら^らし^しむ^む幾^{いく}年^{ねん}小^こも^も宣^{のたま}く^くた^たの^のこ^こ入^い
 る^る中^{なか}い^いふ^ふ時^{とき}浮^{うき}船^{せん}料^{りょう}紙^し篋^{けつ}の^の底^{そこ}より^{より}金^{かね}子^こ成^{なり}と^とり^り
 出^いし^し林^{りん}蔭^{いん}小^こ志^しく^くし^しむ^むこれ^{これ}め^めて^て新^{あらた}く^く衣^い敷^{しき}を^を調^{しら}へ^へし^し

船宿の飯料をも誦し、又我身いとよあるおん
もて知くはべ、さるかあらず来らせぬ人志ろくは
ゆあくおへ、浅くゆふあ、とこまぐいひあめさ
日ハ宿亦へ、海へける林蔭のまらぐ、浮船が石子情
小よりく、舟のまらり、流小出来、りり、くお
可子、屋小来、まて、おぼ、亭主も二人が中、小子細ある
るを、知く、ねを、林蔭、う、金、何さ、ふ、あ、ぐ、さ、ま、これ、お、お、
らく、上、ま、この、大、あ、ら、んと、奔走、他、小、越、り、浮、船
も、堂、より、人、目、越、帰、り、ま、ま、と、表、の、客、の、め、く、も、て、お、お、と
り、と、を、国、中、小、い、ら、く、情、の、越、ま、よ、の、考、た、ま、は、雨、と

之、雲、と、あ、ら、ん、の、雲、り、小、ま、実、を、投、う、ち、て、日、を、
越、ま、る、時、小、勢、州、松、坂、の、商人、一、世、一、度、の、船、盟、あ、り、と
く、は、室、の、津、へ、来、り、還、留、の、う、ち、浮、船、が、客、を、小、泥、て
攻、め、の、時、又、再、び、室、小、来、る、ま、ま、あ、ら、ね、い、と、別、を、
惜、み、千、金、を、以、て、浮、船、が、舟、越、贖、ひ、具、し、て、攻、め、ん
と、既、小、り、室、ま、ま、これ、は、浮、船、林、蔭、小、若、て、い、ま、盡、て、終
別、の、物、を、あ、ら、これ、を、い、ま、ま、苦、累、の、浅、す、は、舟
あ、ま、ば、公、小、但、せ、は、今、度、傳、出、され、る、伊、勢、へ、ゆ、く、あ、ま
と、これ、久、し、別、小、あ、ら、は、いつ、の、比、か、あ、ら、ん、攻、り、来
登、ま、る、ま、と、志、ま、る、の、賊、を、あ、ら、ま、ま、と、あ、ら、つ、け、て、終



あつへ兵庫小あつを母の舟の上あつり何とぞ以て我返
と母の方小舟越よせり老るる人の志とて位あつを
置くに越つけりぬと金子拾兩をうさして
あつにせぬ余波を惜しけるが嘆詞のこりて鶉や鳴
らぬと高人小徳をれはるかの方のさうりあつ
勢州へゆきたるふさのむ彼家小業も妻も何とぞ
其のゆゑ女の小安堵をたぬたのあつして浮船
半幸むりもあつ程小俄小大病象一登衣血を吐
てや中び医者のかぎり越呼むるいろくとき生さ
やと世ともつゆ強あつ折く今も絶つとあつ中

け全大さ小強を小浮船が病あつび金づとぬや
く古々小取しせめて母親小對面させり小舟く強
せんと染が衣類手道具あつとる集め結着あつ仕込人
多つあつて乃の程こあつとつつけて送返りぬ浮船
は乃中をも人ごちあつけは兵庫小返りて母の驚大
かとならぬ街屋の人れも浮船の死志とぬり
あつ家け小いひつと子伊勢あつと送のあつ哪辺おく
王せし小地志と送もあつぬとあつあつ侍小林
病の室の清とて浮船と別てより船宿長八小勝
あつ彼舟を去去しは兵庫小あつりて別浮船が母の

件へ最つ死染が与へたる金子成ひく家門の頼用とさり
 縮ひける後小叔幸多しく暮しし母なる多き大さ小力
 をゆき限なく悦び林蔭を我子のめく意しそて保
 小浮船が吉信を待侘しりし小浮船おひげあき大
 病小どり合せ九死一生小て戻りけし林蔭もつるを
 らししあひ大患ある浮船が疑病をいり小も志て全收
 させんとちふふ我碎医者よ祈待よ志とささぐりお
 ふし浮船何となく身成起しつづきも公をひあ仕玉
 八そけ小病の些もたし病氣の根えをんせや
 さんと懐よりちいさ酒箱をとり出し似せむ赤死

この流しづきこれ苗の汁をり家こを成飲て吐ゆ小室
 死病あるとと心ひて松坂の何系が我を送りけしぬ傷病
 の初めより酒箱を人小見せと心苦しくせし甲斐
 あつてたまやくもゆきし子の焼しさよと一別以来の言
 り成述る小母も林蔭もけりめて女坊の志ひ成か
 浮船は親ひのめく林蔭と夫婦小ありこれへ思て終
 別の後走しかどぬやう癖へ盡しりとそ伴者より送
 りせし荷物を解へ緞子の端天鷲毛の帯子縹子縹
 緞小縹の志する衣袋の敷くさある小瑠璃の櫛篋
 詞山も述ぐり上ふあきと空をひしりもけし小用

ゆきものふあふぐとて悉く賣払ひ過分の金子を
ゆきけし林蔭喜びて身成り性と志く兵庫の
所小家屋敷を賃借穀の同屋をけしめ子孫く
そり弘めたり六月小日小繁昌志く子孫永く
業へしと我

許さうく火へ薪小出薪よるまきく炭炭よるじ
て火火よりして灰灰りつて薪とまきくや林
蔭の最初新町の浮船が情小なり執事の花費
小家私を清し家をも急慕ややげ志く室より
くると艱難を経く花魁浮船小遇この時小茶の

契約く偽計たさる子成りめて知るゆき小娘と
起して己小力成亡さんとせり其一念を投うつ
志を懐無籍の林蔭を露樹く終身の約を
たしとる浮船がまきく灰へあつてひ薪とあさる
こやとるけ実情く我万代不易たま世小女郎
の骨魄あるいおのまが高揮心から浮氣の同又
くさひまきく末もさげぬるゆき小女海女ぬけの疎放
日此のう給出して抱おく忘八の心労いりたる
里そや食ををむ者へを器のを毀つるを
樹を蔭小まる者へを枝を折さる浮船が行

浅見よ忘八あやみよわしやちん小一厘いっしんの損毛せんまをもちきばらるるよく
身を按ぬいて堯つお小又婦あうふとある王子孫しんの後ご業ごうを跡あと
を遺こをひく念おも慮り一いっ虚實こゝろのあつらひ不断ふざん三
畷いん小流りゅう特とく志し物ものの始はじめ終おしまあり志しを家あや常じょう金ぎん
小こ身をみふく乖巧くわいこう大だい毒どく色しき搥あ小こ物もの智ちとみよく
下したとび東とうをかきるとそ右みぎ女に所しよをお懼おそるそるそるそ
虎こ狼ろうよりもちまけげとあ呼あ小こ志し哉やああんんく
牛うしの尿うりふふささづづりりて胡麻ごま味あじ嚼そをあ害あ怕そくくるる

